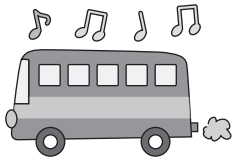
「向島支部旅行記」

―山形・かみのやま温泉 ニュー村尾・浪漫館をたずねて



11月10日（土）、朝7時に東武曳舟駅に集合した。元支部長が『誰だ！行いの悪いやつは』というほどの大雨だった。11月の雨も、これだけ降ると寒い。11名の参加者はほどなく全員集合し、マイクロバスは出発した。

バスの中も暖房が行き渡らず足が冷たい。すぐに高速に入ると後方の席では、体を暖めるための酒の量が進む。渋滞もなく走るが、飲んだため自然が呼んできた。すぐに1升が空になり、宇都宮まで2回目の休憩。添乗員のおねえさんも『30分に1回は記録的です』とのこと。途中、緊急のトイレもあったが、昼までに2升の日本酒がなくなり、白石の昼食になった。

休憩するごとに気温が2度ずつ下がって今は10度を指していた。バスの団体客が集中し、昼食会場は満員になっていた。食後、バスに向かうまでの恐怖のお土産店も人であふれていた。

お腹の皮もつっぱり、見学予定の木造のレプリカ、白石城も時間が押してカットになり、旅館に向かう。40分余り走り、滑津大滝に寄る。道から5分ほど階段を下って滝の遊歩道へいく。高さ10m、幅30mの二段滝で、間近で見ると豪快な水の流れをみられる。みんなアルコール漬けの体にオゾンがしみわたり、気持ちよく見学できた。

この道は白石から高畠（はた）へ抜ける国道113号線で、10年ほど前に二つ宿トンネルが開通し、大型自動車が通れるようになったらしい。7つの宿と小さな温泉を通り、トンネルを抜けると山形県に入った。

紅葉は生憎の雨で、際立った美しさはないが、

木々は紅や黄色に染まり、白い雲が垂れ込めて、雲の稜線が山形盆地をおおっていた。バスの中はお休みタイムとなっていて、高畠ワイナリーに近づく。ナビをたよりにバスは進んだが、工事中のためぐるぐる回り、一周してワイナリーに到着した。

高畠ワイナリーの工場説明を受けたあと、小さなグラスを渡されて、小さな樽からワインの試飲をしながら飲み歩き、全員で10本位購入。そのあと若い本当にかわいいねえさんが気に入って、ウインナーソーセージを全員分買った人もいた。私も1本いただきながら、今日の宿、かみのやまへ向かう。

右側には高圧2万ボルトの注意書きのある山形新幹線が走り、もう15周年の記念の旗が立っていた。全員ワインも入り、元気よく今日の宿、ニュー村尾に到着。数年前に新築した玄関を入り、新館エレベーター、本館の廊下、エレベーター、竹久夢二の絵がかかっている廊下を通り、階段を上り、10畳と8畳の浪漫館『新春』の間に入る。

ここで支部会を開き、支部長の平野さんより挨拶があった。早々に我々のために用意されていた大きな貸切風呂に皆さんでいく。私は大風呂に行ったら、今日はママさんバレー山形若葉大会の人達が400人も泊っていて、女風呂は大にぎわい。女の人でも2メートルある人もいてびっくり。あとの宴会場は大変にぎわっていた。

風呂から上がり、宿の歴史をみてみると、昭和22年8月16日、天皇陛下が民間経営の旅館に初めてお泊りになられた、当時の村尾旅館であった。最高級の貴賓室中の貴賓室とされていたのが数棟ある浪漫館であった。

私の泊った部屋は最近修理され、蔵王の山々の襖、梅・藤・たんぽぽ・わらびが彫刻してある建具、末広の間は扇の廊下天井、梅・竹・鶴・松の窓飾り、反対側は竹・伊勢海老・梅の建具になっていた。

6時からの懇親会には、3人の着物の人が来

て挨拶。みきや、ゆみ、なおみと紹介されたが、ピンと来ないのは名前と一致しないからだ。しかし踊りのうまい人、唄のうまい人、お話のうまい人、3人であり、31歳のチャーミングな若女将の挨拶のあと、花笠音頭や最上川舟唄など、3人のチームワークで徐々に盛り上がっていった。

唄のうまいなおみさんに『孫はいくつになった？』と聞いてみたら、『来年、高校受験だぁー』とのこと。20歳の時の子供で、20歳の子供なら計算が合う。よく赤いミニスカートの鬼の子供のようなコンパニオンが来るが、若い人はその方がよいのかもしれない。この3人は、かみのやま芸者の最後の人達だろう。

宴会も終わり、寝る人もいたが、天皇陛下も座ったであろう次の間の応接間で軽く飲み、お開きになった。そのあと私は露天風呂へ行って、かみのやまのあかりを見ながら、ゆっくりお湯にひたった。さすがあたたまりの湯だけあって、部屋に帰ると体はほてっているし、暖房で部屋は暑くなっていた。

気積といって、1人が6畳の部屋で8時間睡眠をとる時の酸素量が限度らしい。ここは12尺の天井高とたたみ12畳もあり、3人で寝るには十分だが、山の空気を入れてとても気持ちよかった。

朝8時のバイキング朝食は、きのうのバレーボールの女の人達でいっぱいだった。出発の仕度をしていると、部屋の金庫のカギが見当たらず、いろいろ探しまわった結果、大事にしまいすぎていたようで、やっと見つかり、予定時刻に集合した。

旅館の玄関で集合写真を撮り、今日も雨曇りの中出発。作並のホテルで昼食、仙台のかまぼこ店に寄り、きのうの白石ドライブインへ。そこで鮭のお土産を積んだ。昨日とは打って変って、お客様は誰もいなかった。

日の光は見えなかった旅行でしたが、東京へひた走り、7時過ぎに向島へ無事到着しました。

「向島支部旅行記」

―上州1泊2日の旅―

秋も深まった11月10日、上野駅に11時半に8人が集まり、支部旅行は始まった。

12時10分の特急・草津号に乗り、すぐ弁当の後、酒盛りが始まった。満員の電車内では大きな声の材木屋は幹事が気を使う。もうひとつ、去年の教訓を生かして、酒の量を自重した。

ちなみに去年は、北千住から1日2本出ている小田急乗入れの特急で箱根湯本へ行った。千代田線内は「真暗」なので景色が無く、酒に集中して、代々木上原で外に特急が出た時は、新潟の酒「ふなくち」1升が空になり、町田で2升、小田原で意識が無くなり、箱根湯本からタクシーで、やっとのことホテルにたどり着き、宴会は寝てしまい、コンパニオンから「今日はお通夜みたい、皆さん静かね」と言われてしまった。

今年は、自重して気持ち控え目、意識が無くなる事はなかった。

渋川駅でタクシーに乗り、伊香保温泉「ホテルきむら」に直行。20分で到着した後、支部会を開き、宴会まで部屋で休んだ。

その間幹事は、今日のメインのスーパーコンパニオン対策の準備に忙しかった。私は温泉街を散策して、紅葉に映える階段、湯けむり、お土産屋さん等を見て歩いた。

6時から奥の宴会場で宴会が始まったが、トイレは、一般客が立入らないよう、もっと奥の部屋のユニットバスのトイレを使ってほしいとのことで驚いた。

コンパニオン3人が入り、身支度をして皆さん挨拶した。幹事は早くもおしぼり入りのビニールでかわいがっていただき、トランクスを取られてしまった。又もう1人は浴衣の紐で、器用に身にまとい、団鬼六の世界が再現さ

れた。無言の痩せた1人と一番きれいなリーダーは、お酌に廻って歩いた。二次会も同席して、伊香保の夜は、疲れきって熟睡した。

翌日、朝食の後、ジャンボタクシーに乗り、伊香保温泉の階段で証拠写真？と撮り、榛名湖を見て榛名神社に向う。

この時期は紅葉がすばらしく、参道から神社まで全山、黄金色や紅に染まり、「みごと」で圧巻であった。昼食は水沢うどんを食べて、近くの珍宝館に行く。

ここでは30年も前より、チンコさんによる少子化、人口問題についての講義が20分にわたりあり、人をいじる話術には感心した。出口には次のバスが2台も来ており、客が絶えず驚いた。

その後、渋川駅に直行して、20分遅れて来る特急を待ちながら、冬が近くなった上州の風をホームで感じつつ乗車し、上野で解散した。

「向島支部旅行記」

今年は例外になく寒さが厳しくなく、暖房機をつける日が少ない年です。向島支部は毎年この時期に旅行をしていますが、今回は信州の鎌倉、別所温泉に行くことになりました。

この時期、旅館は紅葉とマツタケまつりで満員らしく、なんとか新幹線宿泊セットで老舗の中松屋旅館が予約できました。

11月19日（土）9時30分、上野駅に全員集合して、いつもながら深く長いエスカレーターを下り、地下新幹線ホームに向う。定刻に集まったおかげで、25分待ちの10時6分発まで待つ。上り下りも通勤電車並みのピンクや緑、2階立ての列車を見送り、長野新幹線が定刻に来た。

皆さんを向い合わせにしてから解禁のボジョレーヌーボーを飲んで、ビール、日本酒、焼酎の『くろうま40度』を飲み干し、1時間30分で上田駅に到着した。

ここより上田交通・別所線の田舎電車でコトコト、塩田平の田んぼの中を30分ほどゆられて走る。終点の別所温泉には、昔の丸窓電車が留置してあった。

旅館のバスで昼食の『そば久』へ急ぐ。予約してあったので座れたが、次から次へとお客様が来る。外は、やはり山に囲まれているので、風も冷たい。ビールよりは日本酒が好まれて、辛くて甘い漬物、焼みそで、そばの茹であがりを待った。

天ぷらにはここ名産の朝鮮人参があり、今夜の宴会に備える。お腹もふくれ、体はほてり、肌寒い風と秋の日差しの中で常楽寺へ向うと、藁葺き屋根がなつかしかった。そして、八角三重塔の安楽寺へ足が進む。ヘルメットをかぶった石材店の御地蔵さんを横に見て参道を登る。よく手入れされた20m以上あ

る円錐形の高野槇がすうーっと立っていた。
八角三重塔は、入口より階段で60段以上あるので、何人かはここで抹茶を飲み、休憩。あとの人は見学に行く。鎌倉時代に、よくこの山の上に造ったものだと、先人の知恵と労力には感心させられた。参道に戻り、左に曲がると、今日の宿、享保年間に創業の中松屋旅館に着いた。
早速、平野支部長のあいさつで支部会をはじめる。3時に各部屋に散らばり、寝る人、外湯に行く人、名物の長谷川豆腐屋へ行く人と、思い思いの時間を過ごす。
6時半より親睦会に入るが、酌婦が来ると皆さん静かで、驚いてしまった。電車の中と蕎麦屋さんと適度な見学で疲れたらしく、歌の方もとぎれとぎれになってしまった。2時間でお開きになると、どこの部屋も騒音に満ちあふれた。
翌日、朝食の時間になる前に、ゆうべ早く寝た為、いつもの時間の6時にはごそごそと起き出してみる人もあり、見晴しのよい部屋から、よく晴れた塩田平、上田市の向こうに浅間山が少し白い煙をあげていた。
一浴玉の肌と呼ばれる別所の湯は、嫁ぐ前に10日ほど逗留して結婚式を迎えたそうで、ひと風呂浴びて朝食に向う。種類の多い引き出し式のおかず入れを出して、ほてった体にビールを流し込み、透き通った白いごはんがお腹を満たしてくれた。
9時出発の前に、おきゃんな若女将とコーヒーを飲んでお土産を買い、定期観光のバス乗り場まで歩いて行く。バスが来るまでに時間があったので、去年できた今はやりの足湯を使いながら待つ。
バスが来て、すぐに今日のバスガイドさんと仲よくなり、北向観音に向う。さすが温泉場で、洗心の水も温泉になっていた。そのあと、きのう行った安楽寺、大法寺三重塔、中禅寺薬師堂と回り、鎌倉街道の赤松の枯葉の上を15分程歩き、龍光院での昼食となった。

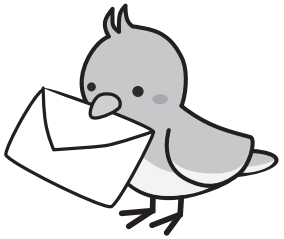
予約制になっており、お寺の奥さんがつくっている精進料理をおいしくいただいた。ある人が『般若湯はありませんか？』と聞くと、お酒はありませんとのこと。『ここに来れば、空気はいいし、心が洗われるね』と誰かがいったが、実際には肝臓が洗われるようであった。俗世間の人間は、このように考えがちだが、山門には禁酒、禁煙と書かれてた看板が目についたが、気がつかなかった。
入口の八角堂は、平成8年に建てられた新しい御堂で、お釈迦様の弟子達が祭られているとのこと。中には『これは何の木を使っているの？』と、商売気を出している人もいた。次に、有望な画学生でありながら、戦死してしまった人達の絵が展示してある無言館を見た。
次の前山寺まで待ちきれない般若湯愛好家が、唐松の落葉の上で、温泉せんべいをツマミにして2、3杯ずつ喉を潤し、皆んなで

塩田平周辺見所マップ

酒の重さを軽くするのを手伝った。
まだ時間があるので、前山寺へ先に行って三重塔を見る。帰り道、寺を背にした参道は石畳になり、７００年のケヤキを左に見て、ちょうど山門の中に、柿の実がいまにも落ちそうに熟れきっていた。その向うに塩田平、菅平の山々が夕日にくっきりと見えていた。
バスは上田駅に到着して、新幹線を待った。車中では、いつになくお酒の要望が多く、何年かぶりに参加された方が平均を上げているのではないかと思われたが、持ってきたビンも空になり、楽しかった支部旅行も、無事上野駅に到着して解散した。
昔、遠かった別所温泉も手軽に行ける身近な所になりました。温泉、建造物も見る所がありますので、素朴な心洗われる支部旅行もいかがでしょうか？酒もうまいよ！

（注）大法寺
門前の古い二対の仁王様は、阿形（あぎょう）が生まれてすぐ泣いて開いた口の形の吽形像と、死ぬ時、口を閉じていた吽形像。ここでは人間の一生を表しているそうだ。密教では初めと終りを表わし、一般的には吐く息と吸う息から、夫婦の微妙な気持ちを表わしている。

投稿



- 同時多発テロ　グランドゼロを軽く使うな　笹本和稔
- 「長寿をめざす人々へ」紀寿―百歳のお祝いに招かれて
- 「百歳の価値」（その２）